

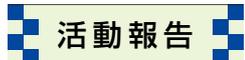


# 朝日21 関西スクエア 会報

Asahi Kansai Square21

2011.9

No. 137



活動報告

## 広島で開催の国際平和シンポジウムに約700人

### オノ・ヨーコさんのスピーチや被爆証言の朗読も

「核兵器廃絶への道〜いま、市民社会から何を問いかけるか」をテーマとした国際平和シンポジウムが7月31日、広島市中区の広島国際会議場で開かれました。東京電力福島第一原発の事故を受け、パネル討論では核兵器だけでなく原発の是非まで幅広く議論。特別ゲストのオノ・ヨーコさんのスピーチや、招かれた被爆者の女性2人が核廃絶への思いを語る場面もあり、約700人の聴衆が詰めかけました。

広島市、広島平和文化センター、朝日新聞社が主催し、長崎市、長崎平和推進協会、広島ホームテレビ、長崎文化放送が後援しました。

### ◇オノ・ヨーコさん「周囲に愛を表そう」

私は日本人であることを誇りに思っています。いろいろな国で災害は起きているが、日本人の態度は違う。他の人のせいにするのではなく、黙って一生懸命復興に携わっている。

広島の人たちは、私たちに希望への道をつくってくれた。だから私たちは歩かなきゃいけない。「犠牲者だったことを覚えておいてくれ」というのは、ノーモア・ヒロシマのメッセージではない。「あなたたちをノーモア・ヒロシマにしたい」という、世界へのメッセージなんです。

もう広島の方たちは犠牲者じゃない。焼け野原からここまでできたという創造的で、非常に力強い、選ばれた人々だ。そして3・11があった。また、私たちはやらなくちゃいけない。

世界を変えてやるという気持ちではなく、身の回りのささいなことから始めよう。1日に三つぐらい、愛を表すことをしてください。そうすると3カ月ぐらいで、あなたの世界が変わる。それでみんなが変われば、世界も変わる。平和になる。大きな力を世界に分けてあげてください。

日本ができたんだから、自分たちもできると世界の人々



中・高生ピースクラブの2人から、折り鶴のレイをプレゼントされ喜ぶオノ・ヨーコさんが思えば、きっとよくなる。だから一步一步、進んでいきましょう。

オノ・ヨーコ 前衛芸術家。1960年代後半から、夫である元ビートルズの故ジョン・レノン氏とともに平和運動を展開。今年、広島市が平和に貢献した現代美術作家に贈るヒロシマ賞を受賞した。

### 1651人の重いメッセージ／被爆証言サイト紹介

パネル討論に先立ち、朝日新聞社が運営する被爆証言サイト「広島・長崎の記憶～被爆者からのメッセージ」が紹介されました。手記がサイトに収められている2人の被爆者が招かれ、近況を写したビデオの上映や、手記の朗読がありました。



サイトの紹介の後、登壇した澤田一瑩さん(75)＝東京都大田区＝は「一人でも多くの人に核兵器の怖さを訴えたい」と話しました。

爆心地から1.8キロの自宅で被爆。3歳だった妹は9月に、母は11月に亡くなりました。祖父母、父、弟もがんで死亡。原爆の影響だと考えずにはられない。「思いを大勢の人に知ってもらおうことで、祖父母、両親らの無念を晴らせるのでは」と言う。

高校2年生の孫娘が「平和に貢献する仕事がしたい」と、語学を学ぶため渡米。明るい表情で「応援したい」と語った

沢田さんは、聴衆に向かって「大きな犠牲を払って成し得た平和を、大切にしてほしい」と呼びかけました。

「66年前の、あの怖い怖い日が胸に迫ってくる」。壇上で前田サトミさん(80)＝広島県安芸太田町＝は、涙で声を詰まらせました。誰かが「太陽が落ちた」と叫んだ。気を失い、額には長さ15センチの傷を負って、皮膚が垂れ下がった。年ごろになると、父に「お前は嫁にいけん」と言われたという。額に傷があり、もらい手などないというのだ。



米国に腹が立ってならなかったが、父の言葉は結局違っていたし、米国を憎む気持ちもなくなった。今は核兵器がいかにも恐ろしい兵器かをわかってほしい。

「私たちはくじけてはならない。与えられた命を大切に、たくましく生きることが大切だ」と訴えました。

# 国際平和シンポジウム パネリスト4氏の冒頭発言

## 核抜き安全、訴えよう

カーネギー国際平和財団副理事長  
ジョージ・パーコビッチさん（米）



奴隷制の「廃止」と核兵器の「廃絶」には、共通点があるのではないかと。英語では同じabolitionという単語が使われる。また、二つの運動には非常に道徳的な側面もある。

リンカーンが奴隷制廃止を考えた時、多くの白人は解放された黒人との共存を望まなかった。これは、核をめぐる現在の状況に似ている。米ロ

仏などの指導者は、核兵器を全廃すれば国民を他国から守れるのか、と危惧している。

段階的な奴隷解放は受け入れられず、南北戦争の死傷者は100万人に上った。核廃絶でも、変化を恐れる人たちが譲歩を拒んでいる。廃止を目指し、広島、長崎のつらい体験を世界に伝えていくべきだ。

核兵器を使わずとも「安全」は達成できる、という国際的な信頼関係を構築しなければならない。広島、長崎の皆さんの訴えは、他にない信頼性を持つ。

## 脆弱な原発、兵器と同じ

核兵器廃絶国際キャンペーン代表  
ティルマン・ラフさん（豪）



福島で起きた壊滅的な人道の悲劇は、起こるべくして起こった。原子力の利用を減らしていかなければ、これが最後の原発事故にはならないだろう。

原発には、地震や津波による電源や冷却システムの損失が事故につながる脆弱性がある。全ての原子炉や使用済み核燃料プールは、「事前配備された巨大な放射能を出す兵器」。原発であれ核爆弾であれ、健康に与える被害は同じだ。

世界のどこかで核兵器が使われれば、どれだけ遠くにも巻き込まれる。この人類共通の敵を排し、法で禁止するための力は、神のひざの上ではなく、私たちの手の中にある。市民社会から、政府や政治家に強力に主張を届けていこう。インドの詩人は「私たちがこの世界を愛さない限り、私たちは生きていけない」と言った。核兵器の廃絶は、重要な「愛」の行為なのだ。

## 核の4政策、今こそ議論

広島市立大広島平和研究所副所長 水本和実さん



「非核三原則」「米国の核の傘」「核エネルギーの平和利用の推進」「核軍縮外交」という、核に関する日本の四つの政策の問題点や課題を指摘したい。

非核三原則の背景には、被爆体験に基づく「反核」の意識があるが、具体的な核兵器の危険性を根拠にするべきだ。三原則の法制化の検討も必要だ。

核の傘からの離脱を目指すのなら、日本が直面している脅威に対処する際、米国の核抑止力は不要だということを示せるかどうか問われている。広島は軍事利用、福島は平和利用における核エネルギーの危険性を経験した。平和利用であろうと、核エネルギーは扱い次第で、人類を制御不可能な危険にさらす。一方、核軍縮外交は、他の政策との矛盾が足かせとなっている。

今、四つの政策の方向性を一つにするための国民的な議論が必要だ。

## 「怖いことは怖い」声を

中央大総合政策学部教授 目加田説子さん



対人地雷は手のひらに載ってしまう小さなもの。安くて300円ぐらいで手に入る。この兵器によって兵士ではなく、子どもや武器を持たない人が犠牲になっている。紛争解決後も悲劇を生み、禁止を求める声は1980年代からあった。

対人地雷禁止という新しい価値は、市民が社会に打ち出して定着させた。NGOと、その主張に共鳴するカナダ政府などが協力して条約をつくった。政府とNGOが協働する時代の幕開けだった。冷戦が終結したことも、一つのポイントだったと思う。

我々は「3・11」を経験し、何が現実かという視点が大きく変わった。脱原発も「冷静に議論しよう」と言われるが、「怖いことは怖い」と声を上げないといけない。国民としてメッセージを発信し、日本政府には核軍縮を実践するようにプレッシャーをかけていかなければならない。

## 金光敏さんが優秀賞を受賞

## 「ニッポン前へ委員会」提言論文



朝日新聞社は、東日本大震災からの復興と日本の将来像を論じる「ニッポン前へ委員会」の発足にちなみ、提言論文を募集。全国から1745本の応募がありました。そのなかから、スクエア会員の金光敏さん(39)＝コリアNGOセンター事務局長＝が優秀賞に選ばれました。

金さんに論文執筆のきっかけ、復興の今後への期待などを寄稿してもらいました。

なお、選考結果は、最優秀賞、委員会特別賞各1人、優秀賞4人、佳作5人。論文要旨は8月1日付朝日新聞に掲載されています。

### 「すべてを学びに変える力に」を展望 炊き出し支援で訪れた被災地の学校を見て

東日本大震災から約3カ月後の6月中旬。私は炊き出しのため被災地にいた。

津波は宮城県南三陸町の中心を破壊した。あの日、町の高台にある志津川高校に人々は逃げ込んだ。もちろん、逃げ遅れた人も多い。志津川高の生徒だろう彼女は運動場脇の校舎の日陰に座っていた。何か会話がしたくて話しかけたが、答えは一言二言。食事支援とは言え、ひっきりなしに巡ってくる支援者の相手も煩わしい。その気持ちはわかる。

第二体育館の柔道場が住民の避難場所で、運動場の一角には仮設住宅。市民団体による炊き出しの拠点に、住民

の支えあう関係作りのための喫茶サロン。自衛隊の給水車と、体育館を埋め尽くす支援物資。被災地の学校はこうして始まった。もちろん、再起困難な学校もあり、震災による悲しみは深いが、子どもはその現実の中にいる。子どもの持つ“すべてを学びに変える力”を信じて、それに寄り添う学校を想像して書いた。震災の貴重な経験を子どもの成長につなげてほしいと願っている。ただ、そのねらいはすべての学校教育の再考にも役立つと思っている。

## お知らせ 16大学参加 大学対抗交渉コンペティション

大阪大大学院国際公共政策研究科教授の  
野村美明さんから

わたしたちの社会は、契約、紛争、外交など、多様な交渉(ネゴシエーション)によって成り立っているといっても過言ではありません。大学対抗交渉コンペティションは、交渉に対する社会の関心を深め、交渉学習のインセンティブを高めるために、大学を越えた対抗戦の場として2002年(平成14年)に設立。現在は日本の15校と豪州の1校が参加しています。

大学対抗交渉コンペティション運営委員会は、毎年1回12月に開催される大会の他に、秋にはリーダーズキャンプ、2月には交渉やディベートに関する教育シンポジウムを開催し、日本から世界に通用する交渉者を輩出するために活動しています。一般見学可能(無料)。

URL: <http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html>

## スケッチかんさい



滋賀県近江八幡市円山町

### 近江八幡のヨシすだれ

今年の夏は、東日本大震災により、節電モードに切り換えさせられた。公民館やお店、家の軒先に、涼を呼ぶために、糸瓜やゴーヤなどのつるものが植えられ、「すだれ」が窓を覆っているさまはいかにも日本的だ。まさに自然の恵みが生かされている。この恵みを創り出す人々にも頭が下がる。すだれに魅せられて、びわ湖周辺でヨシのすだれを編む農家を訪ねた。「今年はことのほか注文が多いが、手作業だから一年かかっても消化し切れないので断っているヨ」とご主人は冷やかな面持ち。限りある資源を大切にしなければと思いながら、小屋に架けられたヨシをスケッチしはじめた。帰り際、ご主人に「9月中旬に月見舟がでるのでまたいらっしやい」と誘われた。

あつた ちかよし  
熱田 親憲

## 「水の都」、堪能したい

桑山 朗人 (科学医療エディター)



こんなに大阪の水はおいしかったかな？ 四半世紀も前になりますが、出張で大阪に短期滞在したときに、ホテルで水道水を飲んだことがありました。カルキ臭だけでなく、かび臭かった。「こんな水、よく飲めるなあ」と思ったものです。今年6月、初めて大阪本社勤務となり、移り住んだ大阪市内のマンションで最初に驚いたのは「水道水が飲める。しかもおいしい！」ことでした。

カルキ臭はないし、かび臭さもまったく感じられない。ごくごく飲んで、正直、キツネにつままれたような思いでした。気になって調べてみると、この水道水、「ほんまや！」という名で売り出されていて、私の着任直前、今年5月には欧州の品評会「モンドセレクション」で金賞に輝いていたのです。自分の味覚に狂いはなかったと、妙に納得しました。

ほぼ半世紀前、私が生まれたころですが、高度経済成長とともに、国内の河川・湖沼・海はどこも水の汚染が深刻で、京阪神の水がめである琵琶湖も同様でした。琵琶湖は全国に先駆けて水質浄化に動き出していましたが、琵琶湖を水源とする淀川の流域は都市化が進み、大阪市の上水道は、上中流域で使われた水をまた使う、いわば「使い回し」の水。当時はまだ、かび臭・カルキ臭が当たり前だったわけです。

その後、全国的に河川の浄化が進み、同時に水道水が見直され始めました。大阪市も躍起になって水質改善に乗

り出したそうです。四半世紀に及ぶ研究の末、2000年に全国の政令指定都市で初めて、市内全域で高度浄水処理を実現したとのこと。カビ臭はもちろん、カルキ臭のもととなる残留塩素もほとんど除去できるようになりました。淀川の水もかなりきれいになり、理科年表によると、水質汚濁の重要な指標となるBOD(生物化学的酸素要求量)は、この20年ほどの間に3分の1まで減り、最も水質が良好な河川の仲間入りも目前のところまで来ているようです。

私がこのほど居を構えたのは、寝屋川と旧淀川に囲まれた大阪城にほど近い小さなマンション。1時間足らずで、中之島を通って会社まで歩くこともできます。さすがにこの暑さなので、いまは電車のお世話になっていますが、車窓からでも水辺の美しい風景を眺めることができます。7月下旬に開かれた天神祭は、川を舞台に華やかに繰り広げられていたのが印象的でした。

もともと大阪は「水の都」と呼ばれ、水運で繁栄した町です。公営の渡し船が、今なお市内8カ所ほどで運航していると聞きました。涼しくなってきたら、休日には中之島周辺を散策したり、渡船に乗ってみたりと、浪華八百八橋とも呼ばれる水都の雰囲気を楽しみたいと思っています。(くわやま・あきと)

### ヴァイヴァルディ生誕333年記念「調和の幻想」 全曲演奏会



ヴァイオリニストの西村恵一さんから

- 9月22日午後6時半、兵庫県立芸術文化センター小ホール(阪急西宮北口駅すぐ)で。
- 大阪ヴァイヴァルディ合奏団(ヴァイオリン西村恵一さんほか)の演奏で、ヴァイヴァルディ協奏曲集作品3「調和の幻想」全12曲を一挙に演奏。
- 入場料3000円(全席指定)チケット申し込みは芸術文化センターチケットオフィス(0798-68-0255)へ。午前10時～午後5時、月曜休み(祝日の場合は翌日)。

### トークショー／ブギの女王・笠置シズ子 ノンフィクションライター・砂古口早苗さんから

■9月18日(日)午後1時30分から午後3時、東かがわ市引田公民館(香川県東かがわ市役所引田庁舎内)で。

- 笠置は引田出身。2010年秋に伝記「ブギの女王・笠置シズ子」を出版した砂古田さんが講演。戦後復興の象徴・笠置の数々のヒット曲と、主演映画の一コマを見ながら、彼女の人生と業績を振り返る。



- 入場無料／問い合わせは、引田まち並み保存会の板東輝則さん(電話090-9557-1283)

### 事務局から 関西スクエア／今年の企画

- 11月3日 明日香村(奈良県)ツアー  
明日香村での古墳発掘調査で業績をあげ、第3回スクエア賞を受賞した西光慎治さん(同村教育委員会文化財課主任技師)が案内役。「古代の宝庫」である、村内の文化財や発掘現場を訪ねます。
- 関連企画／「明日香村文化財帰還展」(10月14日から11月27日)、「帰還展シンポジウム」(10月22日、エルシアター＝大阪・天満橋駅近く)。

### 朝日21関西スクエア 会報 No.137

#### ●スタッフ

富永伸夫、浅野稔、安川嘉泰、小林正典、天野剛志、橋本正人、東山正宜、園真規子

#### ●事務局

〒530-8211 大阪市北区中之島3-2-4 朝日新聞大阪本社内  
TEL 06-6231-0131 (内線5048) FAX 06-6443-4431  
E-mail square.k@asahi.com (PDF会報の希望はこちらへ)  
URL <http://www.asahi.com/kansaisq/>